

横浜市敬老特別乗車証の利用実績について

1 趣旨

横浜市敬老特別乗車証については、令和元年度に設置された「横浜市敬老特別乗車証制度のあり方に関する検討専門分科会」の答申を受け、利用実績を正確に把握するため、令和4年10月よりIC化しました。

令和4年10月1日から令和5年9月30日までの、1年間の利用実績データ（速報値）を集計しましたので、御報告します。

2 乗車証の交付状況（令和4年10月1日から令和5年9月30日）

（1）交付者数

411,555人（前年度比4,980人増）

（2）交付率

51.6%（前年度同）

【参考】直近5年間の交付状況

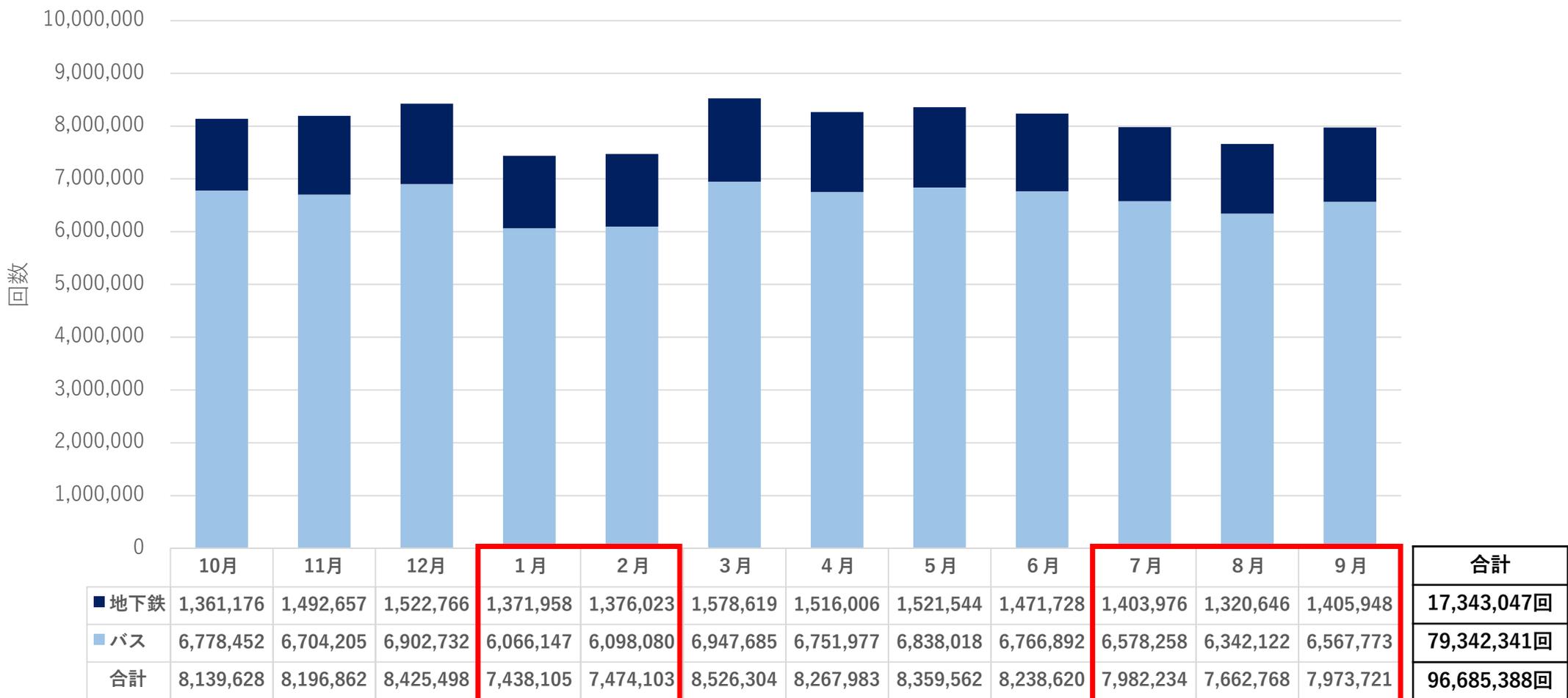
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
交付者数	419,644人	428,877人	416,712人	406,575人	411,555人
交付率	56.9%	56.5%	53.7%	51.6%	51.6%
対象者数	737,308人	758,657人	775,707人	788,633人	798,041人

※年度は、敬老パスの有効期間である10月1日から翌年9月30日まで

3 利用実績データ

(1) 月別利用回数

- ・ 1月から2月及び7月から9月は、他の月と比べて、月の利用回数が少ない。



(2) 交通機関別利用回数

交通機関	利用回数 (10～9月)	一人あたり月 平均利用回数
バス	79,342,341回	16.1回
地下鉄	17,343,047回	3.5回
合計	96,685,388回	19.6回

(3) 曜日別日平均利用回数

- ・平日と比較し、土日の利用が少ない。

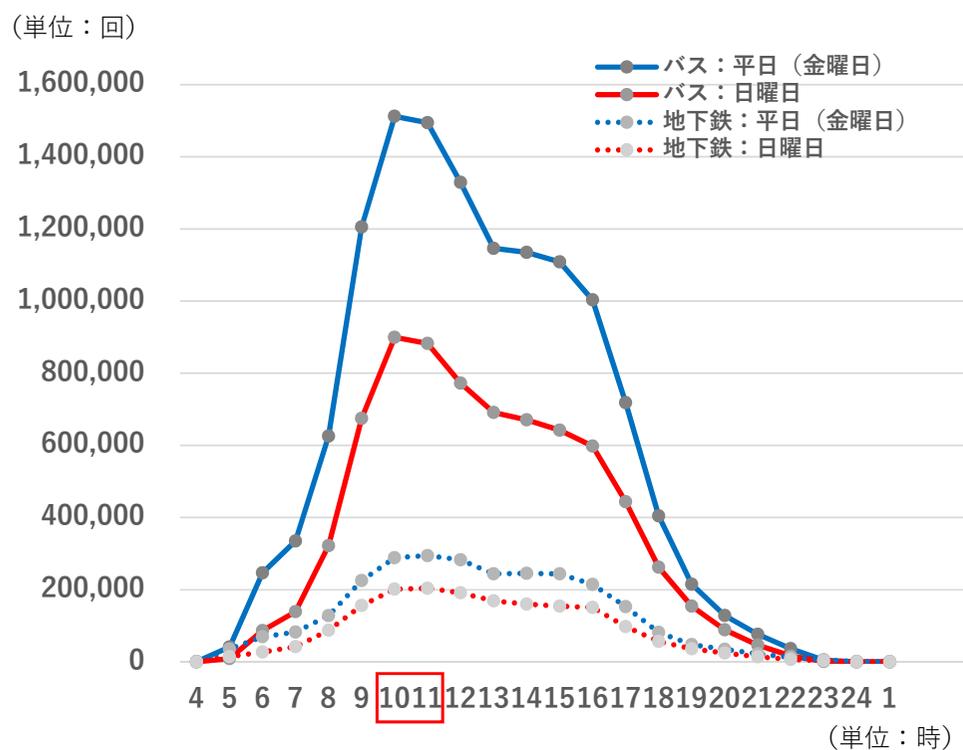
(単位：回)



※端数処理の関係で合計が一致しないことがあります

(4) 時間帯別利用回数

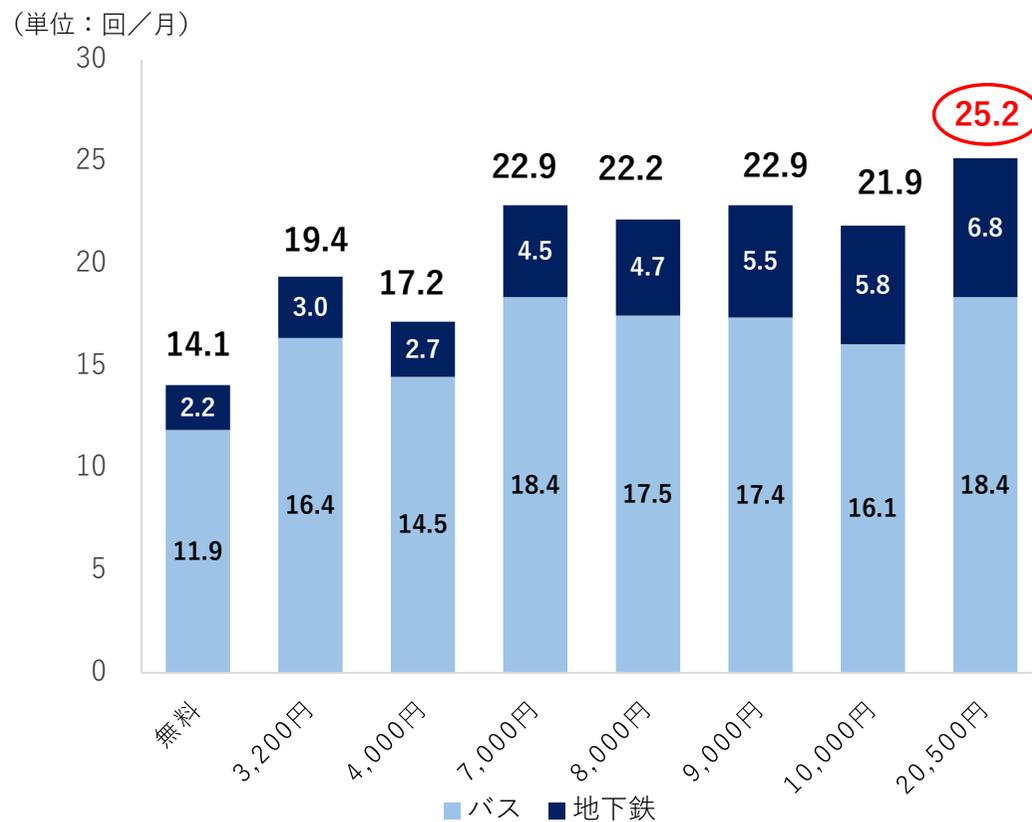
- ・平日、土日の時間帯による利用傾向に大きな差はない。
- ・午前10～11時が利用回数のピークとなっている。



※令和4年10月1日～令和5年9月30日の金・日曜日52日分のデータ

(5) 負担金額別一人あたり月平均利用回数

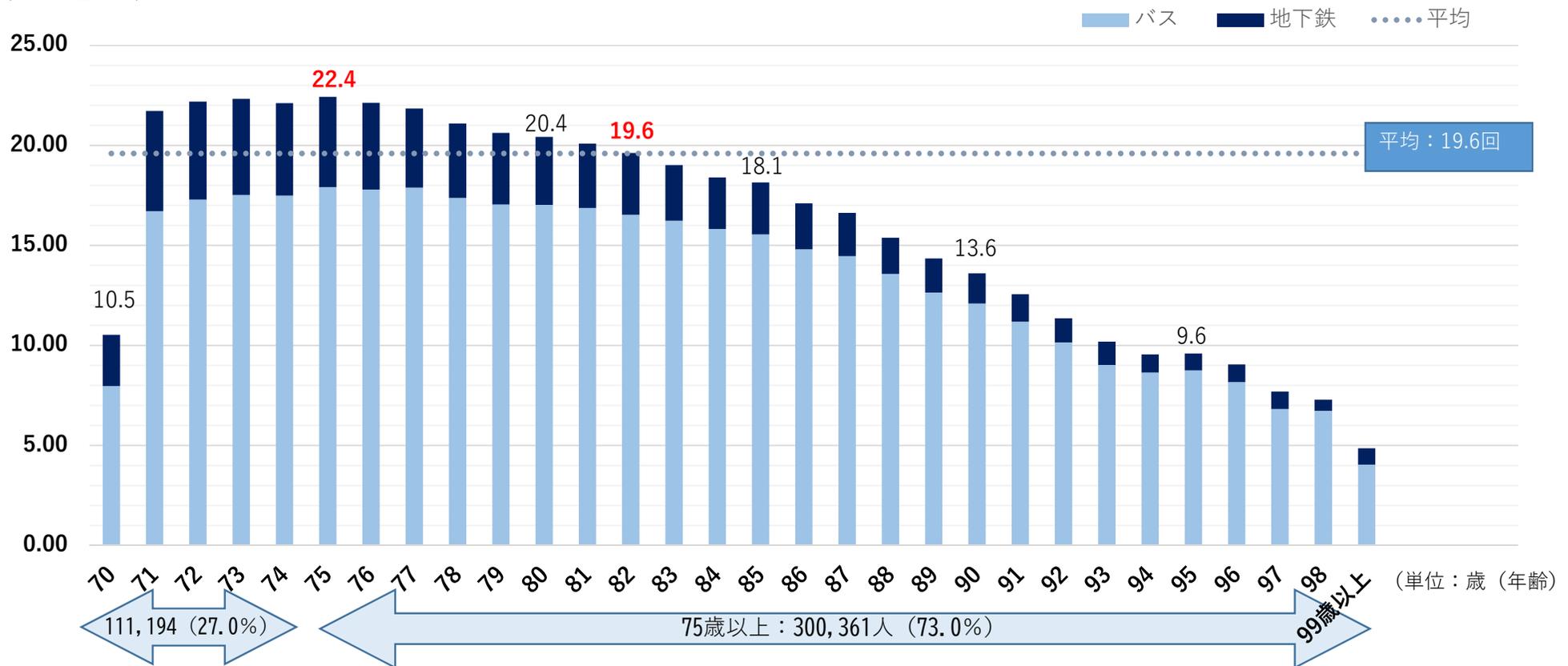
- ・負担金額が一番高い区分 (20,500円) の利用回数が多い。



(6) 年齢別一人あたり月平均利用回数

- ・ 75歳をピークに、82歳までは、利用者全体の月平均利用回数より高い利用回数となっている。
- ・ 年齢が高くなるほど、利用回数が減少している。

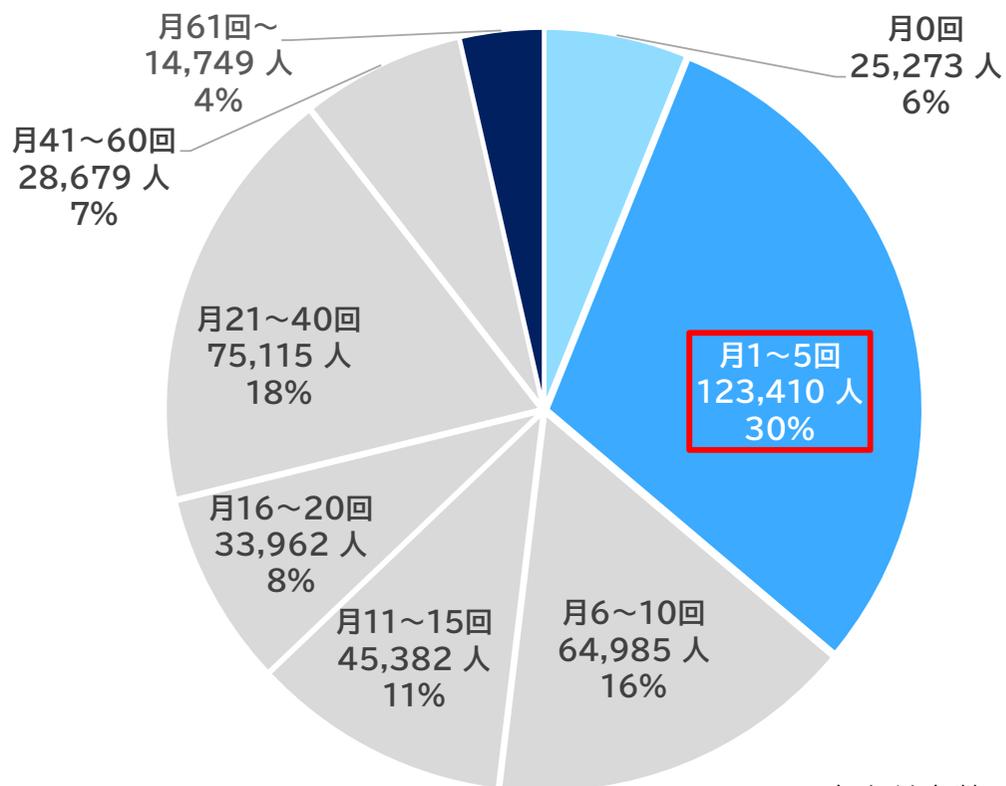
(単位：回/月)



※70歳の利用者は、誕生日を迎えてからの利用者を多く含むため月平均利用回数が小さい

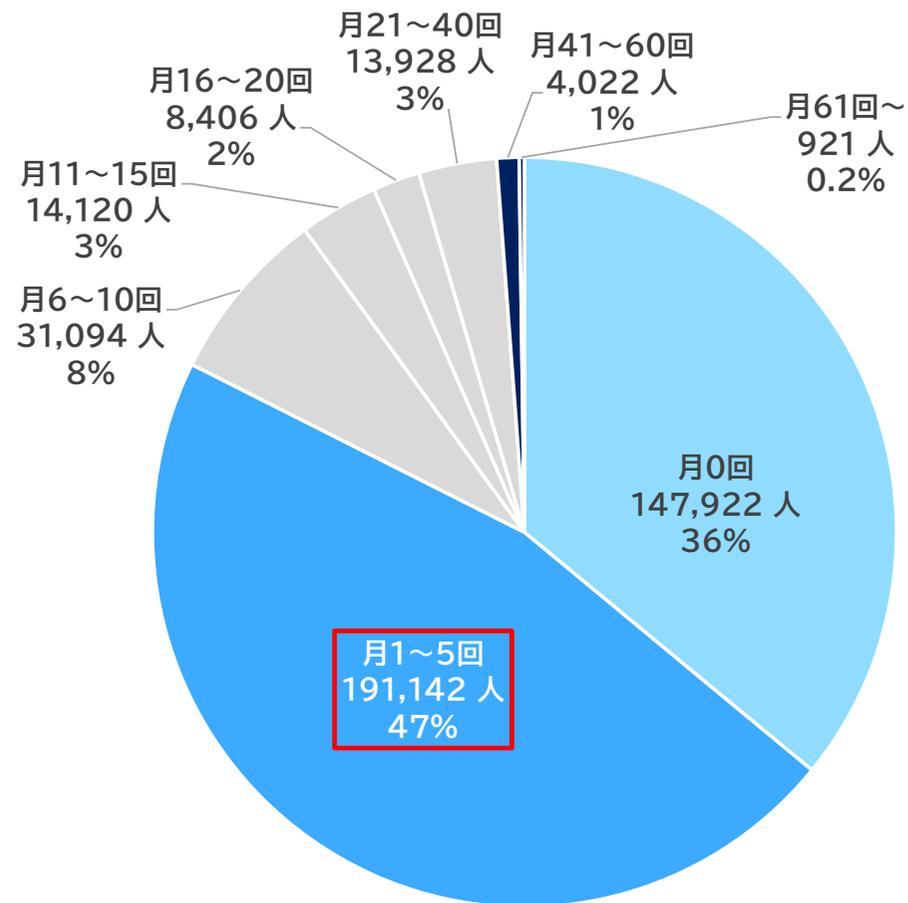
(7) バス月平均利用回数別人数

- ・月平均1～5回の利用者が一番多い。
- ・平均値 16.1回/月



(8) 地下鉄月平均利用回数別人数

- ・月平均1～5回の利用者が一番多い。
- ・平均値 3.5回/月



9月末交付者数 411,555人 (死亡・転出を含む)

(9) バス利用回数内訳

	利用回数合計 (10～9月)	構成比
横浜市交通局	29,231,933回	36.8%
民営バス10社※	50,110,408回	63.2%

※川崎市交通局が東急バスと共同運行する区間を含む

(10) 地下鉄駅別利用回数上位10駅

順位	駅名	利用回数合計 (10～9月) ※
1	横浜	1,653,565回
2	上大岡	1,555,726回
3	戸塚	1,226,903回
4	センター南	795,200回
5	新横浜	759,664回
6	桜木町	744,534回
7	上永谷	727,240回
8	関内	676,386回
9	センター北	649,217回
10	あざみ野	628,001回

※入場の回数データの集計

【参考】乗降客数の上位5駅 (令和4年度)

①横浜、②戸塚、③日吉、④あざみ野、⑤上大岡